

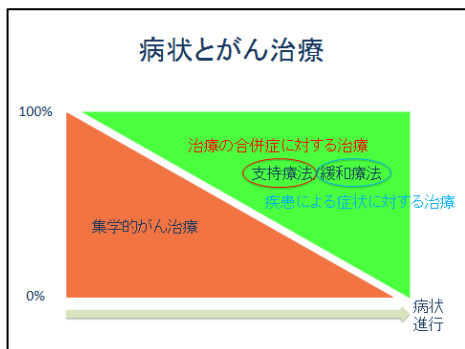
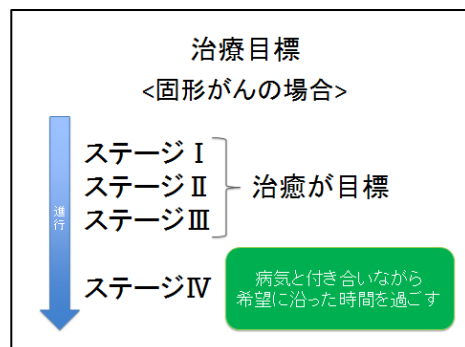
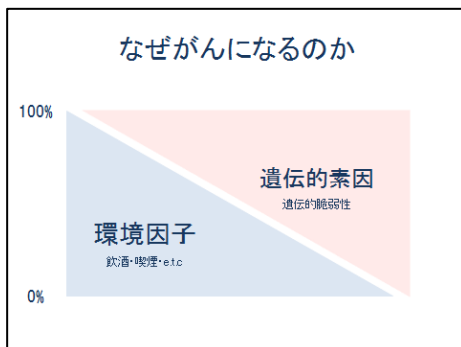
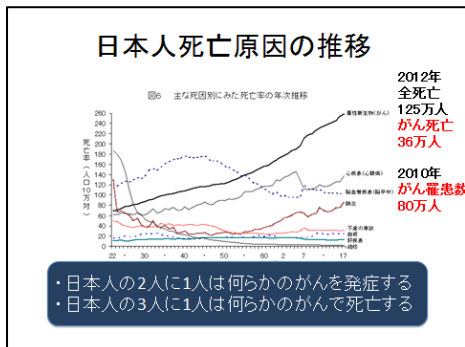
NEWS

大崎保健所では、がん患者様の支援に携わっているコ・メディカルと福祉職の実務者連絡会議を開催しています。今回は特別号として、平成28年6月22日に大崎保健所で開催した研修会の様子をお伝えします。

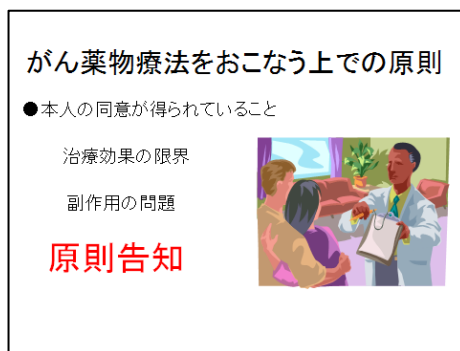
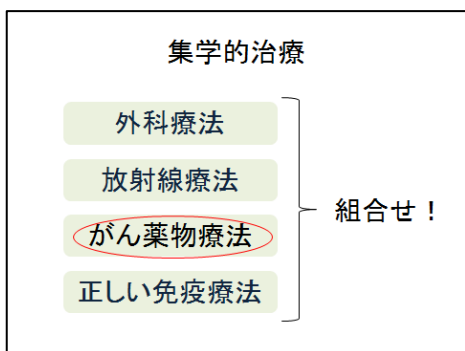
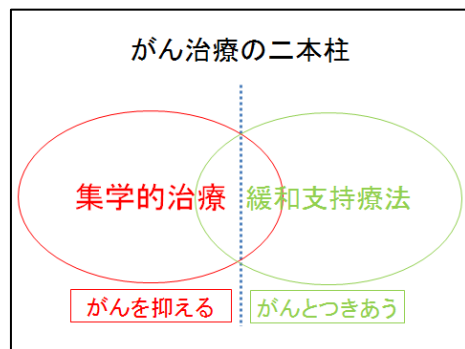


平成28年度大崎地域がん治療に関する基礎研修会

テーマ：がん診療の基礎知識 -がん治療を行うためには- 講師：大崎市民病院腫瘍内科 高橋義和医師



宮城県がん征圧イメージキャラクター
グー子ちゃん & がん助くん



- がんはどれくらい身近なのか？現在、日本人の2人に1人は何らかのがんを発症し、日本人の3人に1人は何らかのがんで死亡する時代となっている。
- がん治療は“集学的治療（がんを抑える）”と“緩和支持療法（がんにつき合う）”がある。治療目標や治療の考え方は、がんの種類やステージ毎に異なり、治癒を目指すだけではない。がんが進行している場合、“病気と付き合いながら、患者さん自身の希望に沿った時間を過ごす”ことが目標となる。
- 終末期のケアでは限られた時間だが、その方に“何が出来るか”を一緒に考え、その方にとってのより良いがん治療を進めていきたい。

～講話の中から抜粋～

《情報提供 ～大崎市民病院 がん相談支援センター 村上比呂子氏～》

○退院支援について○

6月半ば頃から、入院する前から、また、入院した時からの退院支援を強化している。スムーズに退院できるように調整するため、利用者さんで大崎市民病院に通院している方がいれば「入院したらケアマネジャーさんの名前と連絡先を聞かれるよ」ということをお伝えいただくよう、御協力をお願いしたい。また、入院した患者さんがいた場合には、相談部門に御一報いただければ、退院に向けて協力して調整していきたいと考えている。

○がん相談支援センターについて○

がん相談支援センターの昨年度相談実績は約 800 件。今後の療養生活の過ごし方を一緒に考えたり、医師とコミュニケーションが図れるように支援したり、専門職の方から御相談いただき、情報提供や医師と話し合う機会を設定したり、相談内容や状況により様々な対応をしている。

また、拠点病院で求められているのが情報提供の機能であるが、大崎市民病院ではがんサロンをその情報提供の機関としている。がんサロンは、どなたでも、大崎市民病院に通院されていない方でも利用でき、様々なパンフレットを設置し、支援者にも配布している。サロンで開催される各種イベントとして、週1回程度開催されるウィッグの相談や脱毛される方へのタオル帽の提供も行っている。いろいろな相談に対応できる体制を整えているので、是非御活用頂きたい。

《質疑応答》

Q. 在宅療養になった場合、患者の自宅近医を紹介して治療を継続するのか、それとも大崎市民病院が往診しているのか。(薬局薬剤師)

A. 大崎市民病院として、往診は難しい。これから先も、往診を受けてしまうと、急性期治療が出来なくなってしまうため、県北の急性期病院という特性上難しい。

開業医や往診医に紹介もするが、全ての患者を紹介するのではない。「どう生きてどう最期を迎えたいのか」を患者さんに聞いている。患者さんに合わせて、限りはあるが希望に沿えるようにしている。

Q. 状態の変化で服薬経路を変更したくても、次の病院受診まで期間があると、患者さんによっては、そのまま服薬を継続させてしまうことがある。そんな時、直接主治医に連絡していいのか、次回受診を待ったほうがいいのか。(薬局薬剤師)

A. 患者さん全員に「すぐに来院してください」と言えればいいが、限られた人数で外来診療を行っているので、難しいところがある。

具合が悪いときには平日の午前中に連絡をもらえると、次の来院日調整や検査予約をしておき、薬を変更できるかもしれない。医療資源としては高い薬でも、残っている時間は短いという患者さんなの前提なので、原則御連絡をいただくのがいいかと思う。